

●聖霊降臨主日

泉のほとり

今月の詩編 「第三十三編」

主に従う人よ、

主によつて喜び歌え。

主を賛美することは

正しい人にふさわしい。



神からの誉れを愛せよ

十字架の時が迫ってくる中、主は「今、わたしは心騒ぐ。何と言おうか。『父よ、わたしをこの時から救ってください』と言おうか」と語られました。しかし、「わたしはまさにこの時のために来たのだ」と言われ、「父よ、御名の栄光を現してください」と祈られたのです。そして、ご自分の十字架の時を「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。わたしは地上から上げられる時、すべての人を自分のもとへ引き寄せる時」と語られました。

群衆は突然の死の予告に「私たちは律法によつて、メシアは永遠にいつもおられると聞いていました。人の子は上げられなければならぬとどうして言われるのですか」と尋ねるのです。メシアは死なない。永遠に生きると。あなたがメシアであるなら、死なないはずだということです。特にイスラエルの王、メシアを大歓迎した群衆にとつて、主の死の予告は戸惑いではなかつたでしょう。

ところが、その彼らに主は「光は、いましばらく、あなたがたの間にある。光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい」と答えられました。群衆はその語りかけの意味が分からなかつたようです。ヨハネはその時の群衆の様子を「イエスはこれらのことを話してから、立ち去つて彼らから身を隠された。多くのしるしを彼らの目の前で行われたが、彼らはイエスを信じなかつた」と伝えています。そして、人々が信じなかつた理由をイザヤは「神は彼らの目を見えなくし、その心をかたくなにされた。こうして、彼らは目で見ることなく、心で悟らず、立ち帰らない。わたしは彼らをいやさない」と預言したと述べています。

神は人が滅びることを喜ばれず、人が救われることを願つておられます。これは昨日も今日も明日も変わらない神の御心です。そこで一つ忘れてはならないことは頑なな心とされた人の心は人自身の意志、心であつて、人白らが自分の心を頑なにしているという事実が並行していることを見逃してはなりません。

では、どうして神は「立ち返ることがないように、それで癒されることのないように」とイザヤを通して示されたのでしょうか。

一つ想起したいのは、神はこのことをイザヤに語らせたのでした。民に聞かせたのです。それは民に手を差し伸べられている、ということではないでしょうか。

もう一つ、神が人の心を頑なにされたとは、人の心を頑ななままにされたという意味でもあります。人は頑ななままにしなければ、その自分に一向に気づかない。心の頑ななままに生きることによつて、どれほど不幸な実を味合わなければならぬことか。悟らず、立ち返らず、癒されず、闇の中を歩く年月が長ければ、その頑なな心が砕かれ、気づき、立ち返つた時には心砕かれ、へりくだる度合いも大きく、激しいものです。すなわち「悟らず、立ち返らず、癒されないように」とは悟らせ、立ち返らせ、癒されるためにという神の御心が現れたことばであると思われまます。

主は「光があるうちに、光の子になりなさい。光を信じなさい」と語られました。しかし、人々はキリストを十字架につけるほど自分たちの頑なな心に気づきませんでした。むしろ口を「光の子」と見ていたゆえに、口の前にある自分の救い、自分の罪の代償になる神の救いを見ることもできませんでした。

神は人の心を操る方ではありません。操られる方であるなら、御子を十字架につけ、血を流されるようなことまでして、手を差し伸べる必要はないのです。神は口中ずつと手を差し伸べられ、人が立ち返り、救われることを喜ばれる天の父であられます。

十字架のことばを聞いてきました。なお十字架は私たちに語りかけています。私たちの中にはもう十字架が示すことばを聞かなくても良いと言えぬ人は誰一人としていません。十字架の主は、なお我々自身が自ら頑なにしているところを照らし、私の内側に「闇が何一つないように」としてくださるうとしておられます。それを喜ばれた主、そのための十字架を「栄光」とされた主です。主の十字架を感謝し、十字架をこそ誇りとし、私たちがその聖なる主の歩みを願ひ求めて生きようではありませんか。

2024年度

教 会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

《今日のお知らせ》

- 本日はペンテコステ礼拝です。
- 礼拝後、一二時一五分(目途)から地下ホールで讚美集会と持ち寄りでの愛餐会を行います。
- 定例役員会をカナルームで行います。役員の方はご出席ください。
- 次回の洗礼式と転入会式は七月二十八日です。その時に受洗・転入会をご希望の方は願書をお書きになり、本日中午に牧師宛ご提出ください。願書は事務所にあります。

《ぶどうの会より》

讚美集会と愛餐会があるため、ぶどうの会は休会です。

《今後の予定》

- 六月二日 信仰者に学ぶ会
- 六月一四日 附属幼稚園 おゆうぎ会
- 《シオンの会より》
五月二二日(水) 一〇時三〇分〜一二時シオンの会を第二第三シオナルームで行います。(オンラインも併用します。)
テキスト 「聖書が教える世界とわたしたち」P.一一四 救いの実現(一六) 荒野の誘惑から読みます。参加をご希望の方は川越啓子姉までご連絡ください。

《ジュネーブ教会信仰問答》

第五聖日

問三〇 では、第二の部分にまいりましょう。

答 我はその独り子イエス・キリストを信ず云々。

問三一 この部分を要約すればどんなことですか。

答 それは神のみ子をわれわれの救い主として認めることと、彼がどのようにしてわれわれを死から解き放ち、われわれに救いを得させて下さったかということでありませう。

問三二 あなたが彼を呼ぶ、このイエスという言葉はどんな意味ですか。

答 いいかえれば、救い主であり、神の命令に従い、み使によって彼に与えられた名であります。

問三三 そのことは、彼がこの名を人々からうけるよりも優つてゐるのですか。

答 はい確かに。神は彼がこのように呼ばれることをのぞまれるゆえ、真にその通りでなければならぬのであります。

問三四 次にキリストという言葉はどんな意味ですか。

答 との称号によつて、彼の役目が一層よく表わされております。すなわち彼は天の父から、王、祭司もしくはいけにえを捧げる役目、および預言者に任ぜられるために油を注がれなさつたのであります。

問三五 どのようにしてあなたは、それを知りうるのですか。

答 聖書によれば、油を注ぐことは、これら三つの役目に対して、行なわれねばならないからであります。そしてこれらの役目は、彼に幾度か与えられております。

問三六 しかし、どんな種類の油を彼は注がれたのですか。

答 それは昔の王、祭司、預言者たちのように、眼に見える油によるものではありません。それは従来行なわれていたこの外形的な受膏じゆうこうの、真のものである聖霊のもるもの恵みによるものであります。

問三七 その王の国とはどれですか。

答 それは霊的な国で、義と生命を保つ言葉と神の霊によつて成り立っているのであります。

問三八 祭司職は。

答 それは神の御前に出て、愛と恵みとをうけ、神の喜ばれる犠牲を捧げて、神の怒りを和らげる役目と職権であります。

問三九 どうしてあなたはイエス・キリストを預言者というのですか。

答 なぜならば、この世に降つて、父なる神の最高の使者また大使となられたからであります。それは神のみ心をこの世に十分に表わすためであり、かくしてすべての預言と啓示に終りを告げるためであります。

《今日の子ども礼拝》

本日は礼拝堂で9時20分から行います。

説教 「主イエスを教えてくださる聖霊」

聖書 使徒2章1〜13節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

● 子ども礼拝 (午前9時20分・地下ホール)

説教 「祝福を奪うヤコブ」

聖書 創世記27章18〜25節

説教者 宮間彰広 兄

● 主日礼拝 (午前10時30分)

讚美歌 499番 225番

説教 「人間をとる漁師の群」

聖書 ルカ5章1〜11節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師





ペンテコステ礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 180番 499番
説教 「最高の賜物を与えられる聖霊」
聖書 Iコリント12章31節～
13章13節(新約P.316)
司式 石川一兄
聖餐司式 黄允湜 牧師

前奏曲「来たれ聖霊、主なる神」 D.ブクステフーデ

○ 讃美歌180番

1. はとのごと降る めぐみのみたまよ
 こころをやわらげ なぐさめたまえや
2. まことのひかりを われらにてらして
 ひかりのなかをば あゆませたまえや
3. ちちなるみかみの みまえをはなれず
 つつしみうやまいのらせたまえや
4. いのちのみちなる 主イエスにしたがい
 みあとをふみつつ すすませたまえや
5. われらをきよめて さかえのみくにの
 つきせぬめぐみを うけさせたまえや

アーメン

○ 聖歌隊による讃美

「主よくだり給え」 S.ペセル
来たり給えこの日
くだり給え聖霊よ
み名により集い 主をほめたたえ
わが主の命は 我らに満ちる
与えられしすべて信じ
日ごとに 祝福を祈る
そして我ら願う
来たり給えこの日
くだり給え聖霊よ

主の家族として ひとつの心
あなたの救いを 喜び受ける
祝福を給え 幼子たちに
若き者 老いたる者らすべてに
来たり給えこの日
くだり給え聖霊
主よ
来たり給え この日
くだり給え 聖霊
主よ 我らに

○ 讃美歌499番

1. 御霊よ、降りて むかしの如く
 くすしき御業を 現わしたまえ
※ くりかえし
 (代々にいます みたまの神よ
 今しもこの身に みちさせ給え)
2. 御霊よ、降りて めぐみの雨に
 かわける心を 潤おしたまえ ※
3. 御霊よ、降りて けがれを潔め
 とうとき救いにいらしめ給え ※
4. 御霊よ、降りて かよわき我を
 きよめき力に とましめ給え ※

アーメン

聖餐曲「我ら聖霊を願わん」 G.ベーム

後奏曲「光り輝く創造主」による変奏曲 J.アラン

※ 礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。